

令和4年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

佐賀市立金立小学校

4月に文部科学省による学力・学習状況調査を実施しました。全国的な義務教育の機会均等と水準向上のため、児童（生徒）の学力や学習の状況を把握・分析し教育の改善を図るとともに、児童（生徒）一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることを目的としているものです。

結果を基に、本校児童（生徒）の学力の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめました。その概要についてお知らせいたします。

■ 調査期日

令和4年4月19日（火）

■ 調査の対象学年

小学校6年生児童

■ 調査の内容

(1) 教科に関する調査(国語、算数、理科)

- ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等に関わる内容。
- ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容。
- 調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととする。出題形式については、記述式の問題を一定の割合で導入する。

(2) 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

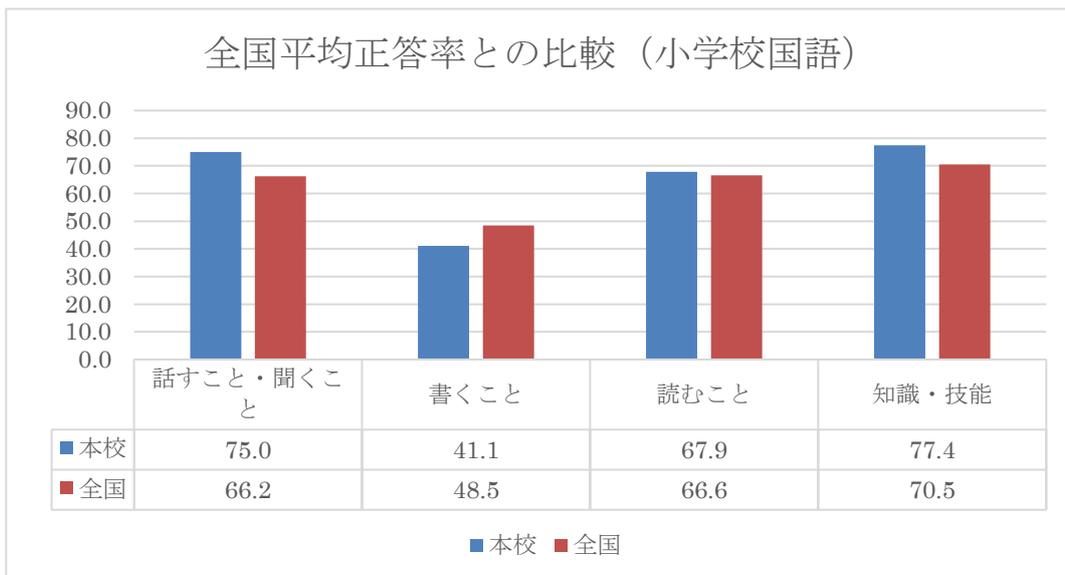
児童に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面に関する調査 (例) 国語への興味・関心、授業内容の理解度、読書時間、勉強時間の状況など	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査 (例) 授業の改善に関する取組、指導方法の工夫、学校運営に関する取組、家庭・地域との連携の状況など

■ 調査結果及び考察について

全国学力学習状況調査は小学6年生・中学3年生と限られた学年が対象であり、教科は国語と算数に限られています。さらに、出題は各教科の限られた分野(問題)です。したがって、この調査によって測定できるのは、「学力の特定の一部分」であり「学校教育活動の一側面」であることをご理解の上、ご覧ください。

■ 調査結果及び考察

1 国語



(1) 結果

「話すこと・聞くこと」「知識・技能」「読むこと」は、全国平均正答率を上回っています。しかし、「書くこと」は、全国平均よりもやや下回っています。

(2) 成果と課題

今回の調査で、「話すこと・聞くこと」が 8.8 ポイント、「知識・技能」が 6.9 ポイント上回りました。国語科の「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」のそれぞれの内容領域の根幹をなす言葉の力であり、普段から、漢字や言葉の学習、音読などの成果が表れていると考えられます。課題は、問題形式の「記述式」の正答率を上げることです。正答率 52.4%は、全国平均正答率 51.3%を上回っているものの、苦手になっている児童が多くいることを表しています。児童の記述力を高めることが、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の力を伸ばすことにつながります。単なる「知識」を問う問題ではなく、「思考力・判断力・表現力」を重視した問題が増えていく傾向にありますので、授業改善を通して、日々の授業で力を付けていくことが重要であると捉えています。

(3) 学力向上のための取り組み

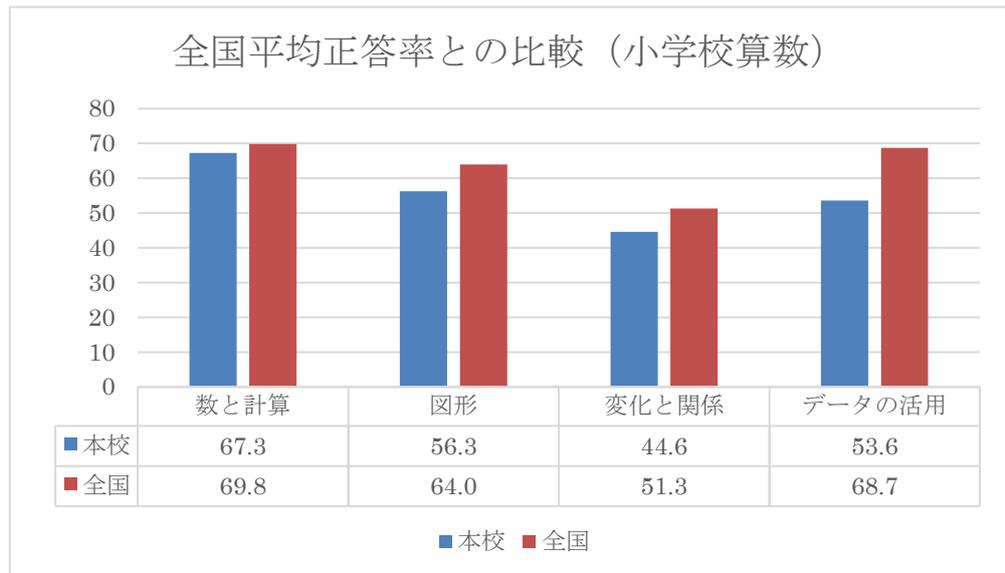
【学校では】

- 子供が主体的に学べるように、授業の在り方を工夫すること（主体的・対話的で深い学び）で、子供同士が話し合いながら、深く学んでいけるようにします。
- 目的や意図に応じて、自分の考えとその理由を明確にしながらかく機会を増やします。
- 漢字の読み書き、ことわざ等の学習に一層力を入れるとともに、辞書を活用させ、語彙力を増やします。
- インタビュー、案内や紹介など、日常生活につながる言語活動を授業場面で設定します。

【ご家庭では】

- 音読を大切にしていましょ。繰り返し音読することで、文の構成、言葉の意味を理解し、文節ごとにきちんと区切ってすらすら読めるようになります。文章を読み、要点や意図を捉えることは、国語科だけでなく全ての教科の学力向上に不可欠です。
- 読書を大切にしていましょ。文学・科学・歴史・地理・芸術…いろいろな本を読み、いろいろな表現や用語にふれることで、語彙力を高め、知識の幅を広げることができます。図書館や書店に定期的に行くことも、子供の読書習慣をつける上でおすすめです。

2 算数



(1) 結果

全ての領域で全国平均を下回っています。問題形式ごとの全体の正答率を見てみると、理由や方法を記述する問題の平均正答率は 49.1%で、考えを筋道立てて適切に記述をする問題の方がやや低い傾向が見られます。

(2) 成果と課題

今回の調査では、「図形」「変化と関係」「データの活用」の領域で、全国平均を7ポイント以上下回っています。特に「データの活用」は15ポイント下回りました。日常生活の問題を解決するために、目的に応じて、必要なデータを収集し、観点を決めて分類整理し、データの特徴や傾向に着目して考察できるようにすることが重要です。そこで、目的に応じて、表やグラフを読み取り、データの特徴や傾向を捉えて考察できるように今後も指導の充実を図ります。

さらに、日々の授業で説明する活動、書く活動を継続して取り入れ、記述した内容を確認させることが重要であると考えています。

(3) 学力向上のための取り組み

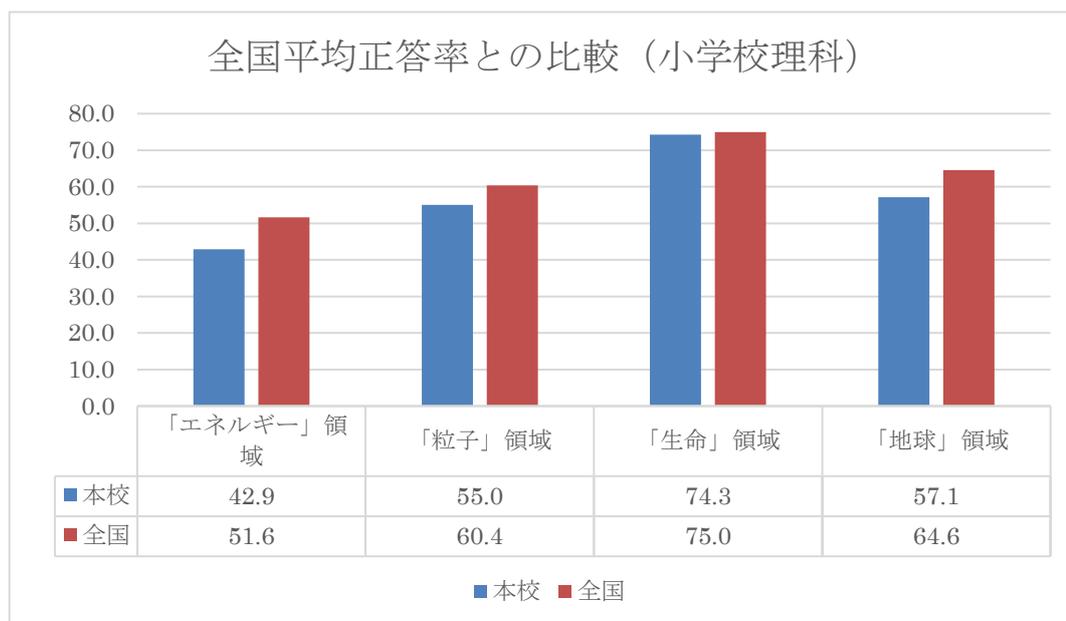
【学校では】

- 式から答えを出すだけでなく、式の意味を考えたり、式に合う問題を作ったり、式から生活場面を想起できるような活動を進んで取り入れ、式、絵や図、具体的場面を行き来できるようにします。
- 様々な見方や考え方ができるように、グループで話し合う活動を取り入れていきます。また、自分の考えを、式や言葉を使って、論理的に書く機会を増やし、記述力の向上に努めます。
- TT少人数指導、ノートチェック、プリント、ドリル、家庭への課題など、日々の指導の中で個々のつまづきを早期に発見し、補充指導に努めます。

【ご家庭では】

- お子さんが、宿題や自主学習(自学)をしているときに、今どのような学習をしているのか、理解できているのか、解くのどのくらい時間がかかっているのか等、関心をもって見ていただきたいと思います。また、テストやドリル、プリント等にも目を通し、励ましや称賛の言葉をかけていきましょう。
- 生活場面で算数を使ってみてください。料理の時に食材の重さを量ると、量感が身に付きます。車で出かけるときに、「時速〇kmで△分かったから、距離は約〇km」と計算してみましょう。「習った事が生活で使えておもしろいな」という経験を重ねることが、算数好きになる第一歩です。

3 理科



(1) 結果

「エネルギー」「粒子」「地球」の領域で全国平均をやや下回っています。観点別に見ると「知識・技能」の観点で全国平均 62.5 ポイントに対して本校は 52.4 ポイントと 10 ポイント以上下回っています。

(2) 成果と課題

今回の調査を受けて、観察・実験などで得た結果について分析して解釈し、より妥当な考えをつくりだすことができるようにする必要があります。また、基礎的・基本的な知識・技能の定着を図る必要があります。観察・実験などの結果について、自分や他者の気付きを明確にして差異点や共通点を基に問題を見いだす学習活動の充実を図っていきます。

日々の授業で説明する活動、書く活動を継続して取り入れ、記述した内容を確認させることが重要であると捉えています。

(3) 学力向上のための取り組み

【学校では】

- 目的意識をもった実験・観察を行うための基礎的・基本的な知識・技能の定着を図ります。
- 理科の学習過程を「事象提示→課題→予想→実験・観察→結果→考察→課題・・・」とし、一貫した学習指導を行うことにより、児童の思考力、判断力、表現力の向上を図ります。
- 様々な見方や考え方ができるように、グループで話し合う活動を取り入れていきます。また、結果に対する考察を論理的に書く機会を増やし、記述力の向上に努めます。

【ご家庭では】

- お子さんの宿題プリントやテストをご覧になって、励ましや称賛の言葉をかけてください。
- 理科に興味・関心をもたせるための手立てとして、「習ったことが生活の中で使えて、便利だな。おもしろいな。」と思う経験をさせることが有効です。星空を見上げて星座の話をしたり、コップの結露の理由を考えたりすることで、習ったことと日常生活での現象を結びつけると理解が深まることもあります。

4 生活習慣や学習習慣に関する調査

(1) 結果

《生活習慣・挑戦心・規範意識について》

調査項目	本校 %	全国平均 %
朝食を毎日食べていますか。	82.9%	84.9%
毎日同じくらいの時刻に寝ていますか。	51.4%	40.7%
毎日同じくらいの時刻に起きていますか。	62.9%	56.8%
自分にはよいところがあると思いますか。	17.1%	39.4%
難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか。	22.9%	27.6%
人の役に立つ人間になりたいと思いますか。	71.4%	75.1%
いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。	80.0%	83.9%

「早寝・早起き・朝ごはん」の生活リズムを大切にしていくことはとても重要です。家庭と学校で協力して、習慣化していきましょう。

自己有用感が低い結果になっています。学校行事などを通して達成感や成就感を味わわせることで自信へとつなげていきたいと思います。

《家庭学習の様子》

調査の項目	本校%	全国平均 %
家で自分で計画を立てて勉強をしていますか。	22.9%	27.5%
学校の授業時間以外に、普段1日当たりどれくらいの時間勉強していますか。「3時間以上」	8.6%	11.3%
「2時間以上、3時間より少ない」	34.3%	13.8%
「1時間以上、2時間より少ない」	25.7%	34.3%
「30分以上、1時間より少ない」	14.3%	25.8%
「30分より少ない」	5.7%	10.5%
「全くしない」	11.4%	4.2%

家庭学習については全国平均とほぼ同等ですが、まだ1時間未満の児童が3割近くおり、中には全く家庭学習をしていない児童もいました。かなり個人差が見られるので、家庭学習の手引きをもとに家庭学習の意味を保護者や児童に伝えて家庭学習が習慣化するように指導をしていきます。また、自分の目標に向かって、計画を立てて家庭学習を行う習慣についても指導していきます。

(2) 改善に向けての取り組み

【学校では】

- 子どもたちが「深い学び」に向かうよう、職員が共通理解をもって授業改善に取り組んでいます。授業展開は良かったか、教師の問いかけにより子どもたちが深く考えるきっかけになったか等を振り返り、次の授業へ生かすようにしています。今後も全職員が熱意をもって取り組んでいきます。
- 読書の機会を増やすための工夫をしていきます。始業前（8：05～8：15）に朝の読書タイムを設けたり、ボランティアによる読み聞かせをしたりするなど、これまでも取り組んできたことを、これからも継続していきます。
- これまでに学習してきた内容、特に前学年に学習してきた内容が定着するよう、朝のスキルタイム等を活用し、定期的に復習していきます。

【ご家庭では】

- 上記の項目は、改善を図ろうと「まなざしカード」でも取り上げている項目です。「まなざし週間」だけでなく、規則正しい生活と家庭学習の定着することは、極めて大切なことです。お子さんが自分からできたとき、少しでも向上したときを逃さず、褒めることで意識が更に高まります。
- 「家庭学習の手引き」をご覧になり、学習時間のめやすや、自主学習の説明を参考に、自分で決めて学習できるように励ましてください。